

## レクリエーション支援教育における「交流大会」に参加した学生の変容について (その2)

○大西敏浩〔四天王寺大学短期大学部〕、奥野孝昭〔四天王寺大学〕、  
吉田祐一郎〔四天王寺大学〕

キーワード：レクリエーション支援教育、課程認定校レクリエーション交流大会

「(公財)大阪府レクリエーション協会課程認定校レクリエーション交流大会」(以下、「交流大会」)は今年で第19回を迎えた。これは、レクリエーション・インストラクター等のレクリエーション資格の取得を目指す学生が自ら提案するレクリエーションプログラムの実施を通して課程認定校学生間で交流するイベントである。

授業担当者は、他人の前で発表する力を身につけさせることを教育的なねらいとしている。このため、他校や先輩たちの支援内容や方法から実践力を習得させる目的で、本学ではレクリエーション支援の基礎的学習である設置科目「レクリエーション論」を履修した学生を中心に同大会に参加した。

この交流大会へ参加した学生らに、大会前・後でどのような変容が齎されたかについて経年比較を目的に昨年に引き続き調査した。なお本結果から、意図的な教育活動としてのレクリエーション教育の果たす目的と役割、実際の学生の変容を考察する今後の研究の材料としたい。

## 自覚疲労およびだるさ・痛み部位からみた大学スキー実習中における参加者の疲労状態

○中丸信吾、菅波盛雄(順天堂大学スポーツ健康科学部)

キーワード：大学スキー実習、自覚疲労、だるさ・痛み部位、経験・技能レベル

本研究では大学スキー実習の期間中における参加者の自覚疲労および各部位の疲労状態の変化について調査し、スキー実習における障害予防および疲労状況に応じたプログラムのための基礎資料とすることを目的とした。

体育・スポーツを専門としない学部のスキー実習に参加した学生男女52名を対象とし、実習期間中の疲労状態について、新版「自覚症しらべ」および自作の「だるさ・痛み部位」調査用紙を用いて調査した。実習期間中における自覚疲労の変化、だるさ・痛み部位の発生件数について全体および経験・技能レベル別に検討した。

自覚疲労については、ねむけ感は終始高く、だるさ感は実習後半で高まり、不快感は実習後半に低下した。だるさ・痛み部位については、前腕、大腿、ふくらはぎなどは特に初心者において実習の経過とともに有訴数が多かったが、すねの痛みについては中上級者が多かった。大腿(大腿前面・後面)については、経験・技能レベルによって特徴的な相違がみられた。以上のことから、大学スキー実習において障害予防という観点から経験・技能レベルによる疲労状況に応じたプログラムも検討する必要性が考えられた。